

F-REI 市町村座談会（川俣町）議事要旨

1. 日 時 令和6年1月18日(木) 16:00～17:00

2. 場 所 川俣町役場3階大会議室

3. 議 事

(1) 開 会

(2) 挨拶

(3) F-REI の取組紹介

(4) 意見交換

＜テーマ＞ F-REI との未来の連携について

(5) 閉 会

【主な発言内容】

- F-REI の研究の方向性である「儲かる農業」について、重要な点であると感じている。加えて、農業経営では儲かることと同時に、それを継続することが非常に難しい。
- また、大規模化しても労働力の確保等の観点で継続していくことが困難という声もあり、F-REI の研究に掲げられた「自動化・省力化」がこうした課題の解決策になると期待している。
- 当社では、主に精密部品の加工、医療関係及び防衛関係の部品を製作している。現在の川俣町は、担い手の育成ができなかった等の要因で、中小企業が激減している。
- 事業を存続させていくためには、受注を待っているだけでなく、自社で製品開発等の新しい事に取り組むことが必要だと考えているが、中小企業が単独で研究開発を行うことは、資金や人材の問題で難しい。
- 今後、F-REI が川俣町で研究開発を行っていただけると、中小企業としても希望を持っている。F-REI から「こういう製品が必要」という要望があれば、ぜひ当社として取り組んで行きたい。
- 当社は昭和18年に発足し、主に鉄道車両などの電動機の製造を行っている。現在、脱炭素社会へ向けて環境面に配慮した製品の開発も研究しており、山形の企業と協力して輸送トラックのEV化に取り組んでいるほか、親会社と農機のEV化に取り組んでいる。
- 研究開発に当たり、人材不足や資金不足が大きな課題となっている。F-REI と連携して若手人材の確保につながるような、魅力ある研究に取り組めることを期待している。

- 絹産業で栄えた川俣町の伝統である絹織物の会社として創業 106 年を迎え、自分が 5 代目である。絹織物を京都の寺院や神社にも納める一方、最近は大企業や県内の企業とも連携し、様々な取組を行っている。
- 繊維産業は、世界で 2 番目に石油を大量に使う産業であり、ヨーロッパでは、環境面から繊維に関するルールが変わっているが、日本は対応できていない状況にある。
- F-REI は繊維産業に関する研究開発はしないとのことだが、福島からグローバルスタンダードを創っていただけのような研究開発に取り組んでいただき、その取組の一つに繊維産業も含まれてくれば、我々も参画できる機会があるのではないかと考えており、その点に期待したい。
- 当社は、主にスーパーマーケット業を展開しているが、新規事業として紅鮭の陸上養殖に挑戦している。紅鮭は病気に非常に弱く、養殖が難しい魚であり、現在国内で流通しているものは 100%天然物である。難しい挑戦ではあるが、外的な環境負荷を軽減した魚の育成が可能と考えている。
- 廃校となった町内の小学校を陸上養殖の研究開発拠点として活用するため、令和 5 年 2 月に川俣町と連携協定を締結した。
- 廃校となった小学校を活用することで、地域に新たな産業を創出するとともに、川俣町の子供達の食育にも貢献したいと考えている。今後、研究施設の一部見学や養殖された紅鮭を食べることが出来るイベントなどを検討している。
- 陸上養殖は、エネルギーコストが問題であり、省エネルギーやカーボンニュートラルに関する F-REI のエネルギー分野の研究開発に期待したい。
- 本校は 2 年前に機械科が閉科となり、現在は普通科のみとなっているが、興味関心や適性能力の拡大のため、生徒に工業の授業を選択させて、実際に機械を触るものづくり体験を週 7 時間程度行っている。
- 農業を体験したことがない生徒もいることから、今年度は 1 年かけて農業体験を行っている。9 月に収穫祭を行い、作物を育てる喜びを体験できる機会を設けた。
- 川俣町との連携では、洪水ハザードマップ作成を行ったほか、生徒が町の中を取材し、町の魅力を発信する動画作成に取り組んでいる。次年度以降も継続し、町全体の魅力開発につながるよう取組を深めていきたい。
- 普通科のみの学校では座学中心の授業になるところ、本校は独自の授業を行っており、本校の生徒達が F-REI の研究開発等に関わる機会を設けていただくことで、高校生の目線や感性が新たな研究開発等の切り口の発見に貢献できる可能性があるのではないかと考えている。